

科目	ボランティア論		単位数	2
担当教員	小口 将典			
履修対象	社会福祉学科1年春学期			
目的	現代社会におけるボランティア活動の意義と役割について考えるとともに、受講生一人ひとりが社会と向き合い参画するきっかけを見つけることを目的とする。			
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)自身が暮らす地域において展開されているボランティア活動などの取り組みを知得する。 (2)東日本大震災などで展開されているボランティアに関する記事を読む。 「思考・判断」 (1)「してあげる」「してもらう」という視点から「ともにする」という発想でボランティアを考えることができる。 「技能・表現」 (1)身近な問題や課題に意識を向けて深求することができる。 (2)ボランティアに踏み出す作法と心構えを身につけている。 「知識・理解」 (1)社会福祉におけるインフォーマルな社会資源としてのボランティアの位置づけと役割について説明できる。 (2)ボランティア活動に参加する方法を獲得している。			
授業計画				
1	ボランティアって、何？／「ボランティア」という言葉からイメージすること			
2	ボランティア活動の歴史／これまでボランティアがどのような役割を果たして発展してきたのだろう			
3	身近な福祉性／当事者のニーズを把握し想像する視点を学ぶ			
4	「見えるってどういうこと？」／相手の立場で考えるとの意味を考える			
5	地域への関心と理解／地域の課題について考える			
6	高齢者福祉とボランティア／身近な問題やニーズを発見し、解決のために取り組むべき課題と方法を考える			
7	障害者福祉とボランティア／身近な問題やニーズを発見し、解決のために取り組むべき課題と方法を考える			
8	災害福祉とボランティア／東日本大震災におけるボランティア活動と住民の協働			
9	世界で活躍するボランティア／ドイツ国際平和村の取り組みから			
10	改めてボランティアを考える／①ボランティア活動をするにあたって、②ボランティア活動における心構えを考える			
11	他者への関心と理解／「困ったことに直面する」とはどういうことか			
12	身近にできるボランティアを考える			
13	ボランティアマネジメント／①きっかけづくり、啓発、さらなる展開に向けての支援 ②ボランティア活動計画の作成			
14	社会福祉におけるインフォーマル資源／ボランティアの位置づけと、役割について考える			
15	これからのボランティアの発展と自身の参画にむけて／①講義のまとめ ②ボランティア活動計画の作成			
授業形態	・講義、一部演習。 ・ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。			
教科書				
教科書名	著者名	出版社	金額	
ボランティアまるごとガイド	安藤雄太 監修	ミネルヴァ書房	1500	
参考書	・『東日本大震災ノート災害ボランティアを考える』晃洋書房、2013 ・『社会福祉をはじめて学ぶあなたへ-社会福祉入門-』ヘルス・システム研究所、2008 ・『地域福祉の理論と方法』学文社、2013			
評価方法	定期試験(60%)、2回提出する課題レポート(20%)、講義毎に提出する簡単な小レポート(20%)			
留意点	・ただ講義を聞くだけではなく、これまでの経験のなかで学んできた知識や自身の関心に引きつけて「考える」ことを講義では重視します。 ・受講に際してボランティア体験の有無は問いません。これまでにボランティアの体験がある人は「より深く」、ない人はボランティアにかかわり「より広がる」きっかけになればと願っています。 ・講義に関係のない作業、私語は慎んでください。			
準備学習	・新聞などで身近に起こっている福祉や地域の問題などについて知識を得るよう心がけること。 ・15回の講義のなかで事前学習として2回のレポート課題を提示します。 ・指定された教科書範囲を必ず事前に熟読して受講して下さい。			
備考	・ボランティアは自発的なものであり、誰かに言われて強制的に参加するものではありません。しかし、活動未経験の学生に対してボランティア活動へのきっかけづくりの支援を行いますので、遠慮なく相談に来て下さい。		No.	SW621002